

川崎市SDGsプラットフォーム分科会 活動報告書

提出日

2025年2月28日

分科会名

「フォレスト・サポート・プロジェクト」分科会

分科会長

事業者名

所在地

担当者名

メール

電話番号

活動計画書（第1号様式）に記載の通り

1 分科会の設立目的・趣旨・概要

※活動計画書（第1号様式）の記載内容から変更なければ記載不要

活動計画書（第1号様式）に記載の通り

2 活動報告・活動結果

※成果報告会用の報告書で代用可能

別添「成果報告書」参照

分科会長
(事業者・団体名)

NP0法人地域学習プラットフォーム研究会
関東ブロック連絡会

関連する
主なゴール



設立目的・
趣旨・概要

最終目的は、CO2 削減です。その手段として、CO2吸収機能の拡大のために、「CO2吸収機能」を持つ森林の保全・育成・拡大を目指します。
分科会としては、森林の保全・育成・拡大の効率的、汎用的な、参入障壁が低い仕組み/スキームの研究・開発とすることを目的に活動します。

活動計画・
活動内容

計画：森林保全・育成の現状把握、仕組み/スキームの研究・開発

活動①：調査

- ・(森林関係)---森林現場の「現状、課題、望むもの、企業との接点を持つこと」に関しての調査
- ・(企業関連)---森林保全に関する「企業としての取組の有無、取組めない/取り組まない理由、今後こんな仕組みができれば参画したいか」などの調査
- ・SDGsアクションにおける森林保全活動の位置づけ確認

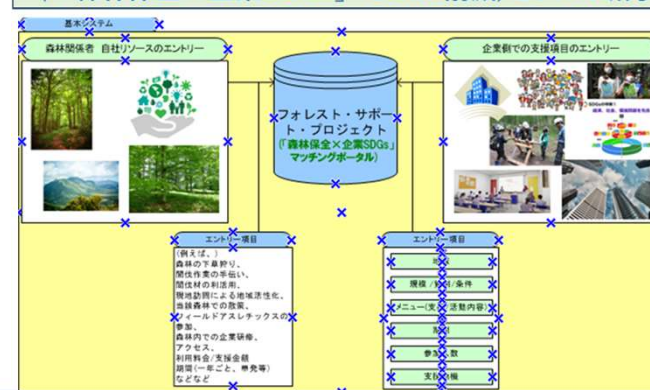
活動②：調査結果の公開、セミナー

- ・川崎発(森林保全/山村×企業) モデルの研究(外部有識者との連携)

活動③：社員向け木育事業・森林見学ツアー等

- ・企業担当者を、当該森林にバスで連れていき、森林保全活動を認識・理解していただくための フック

(「森林保全×企業SDGs」でCO2削減)モデルの研究



募集したい
パートナー

- ・森林保全活動に関心がある企業・団体等
- ・企業・団体等と連携しながら、森林保全活動を推進したい森林・木材関係者
- ・本事業を支援できる企業・団体等

参加
メンバー

地域学習プラットフォーム研究会関東ブロック連絡会【※代表】、株式会社福田商店、川崎市で木育を広め隊、NOFメタルコーティングス、かわさき環境教育学習プロジェクト、ITプロダクツ株式会社

●活動報告1(仮説モデルの整理)



- ・分科会内部で複数回のブレストを実施し、仮説モデルの整理とその実現戦略に関して、取りまとめた。

- ・モデル名/コンセプト

『共に「SDGs/フォレスト・サポート」チャンネル』

(「森林保全 × 企業SDGs × 一般市民」でCO2削減)

仮説モデル概略

●WHY?(なぜ、やるのか)

- ・SDGs推進活動(とりわけ、森林保全等)の支援・強化のために実現する。

●WHO?(誰に対して、やるのか)

- ・コンシューマーを対象にした消費財の生産/販売等、サービス業務等の提供を手掛けている中小企業に対して実現する。開発段階では、大手企業とのソリューション連携も実現する。

●WHAT?(何を提供するのか)

- ・一般人を巻き込んだ活動を実現させるための企画立案や集客等広報手段等に関する課題解決支援のプラットフォームシステム、市場開拓ノウハウ等の提供、運用サポートの実施。

●HOW?(どのように実現するか)

- ・地域メディア企業(新聞社等)等との「事業連携」により事業実現。地域自治体、地域金融機関、地域経済団体等との連携も実現する。

解決すべき課題は何？

現状の課題



解決策は？ 本モデルのコンセプト

現状の課題

一部の大手企業が、森林組合等に「寄付」など形で支援しているが、「人」「モノ」「金」等を投入できないほとんどの中小企業は、森林保全を支援できていない。



課題解決策(本モデルの価値)



中小企業が、多くの共感者と共に、森林保全活動ができる仕組みを提供する

『共に「フォレスト・サポート」チャンネル』
('森林保全×個人'
マッチングポータル)

共感者/個人



中小企業



地域メディア企業等



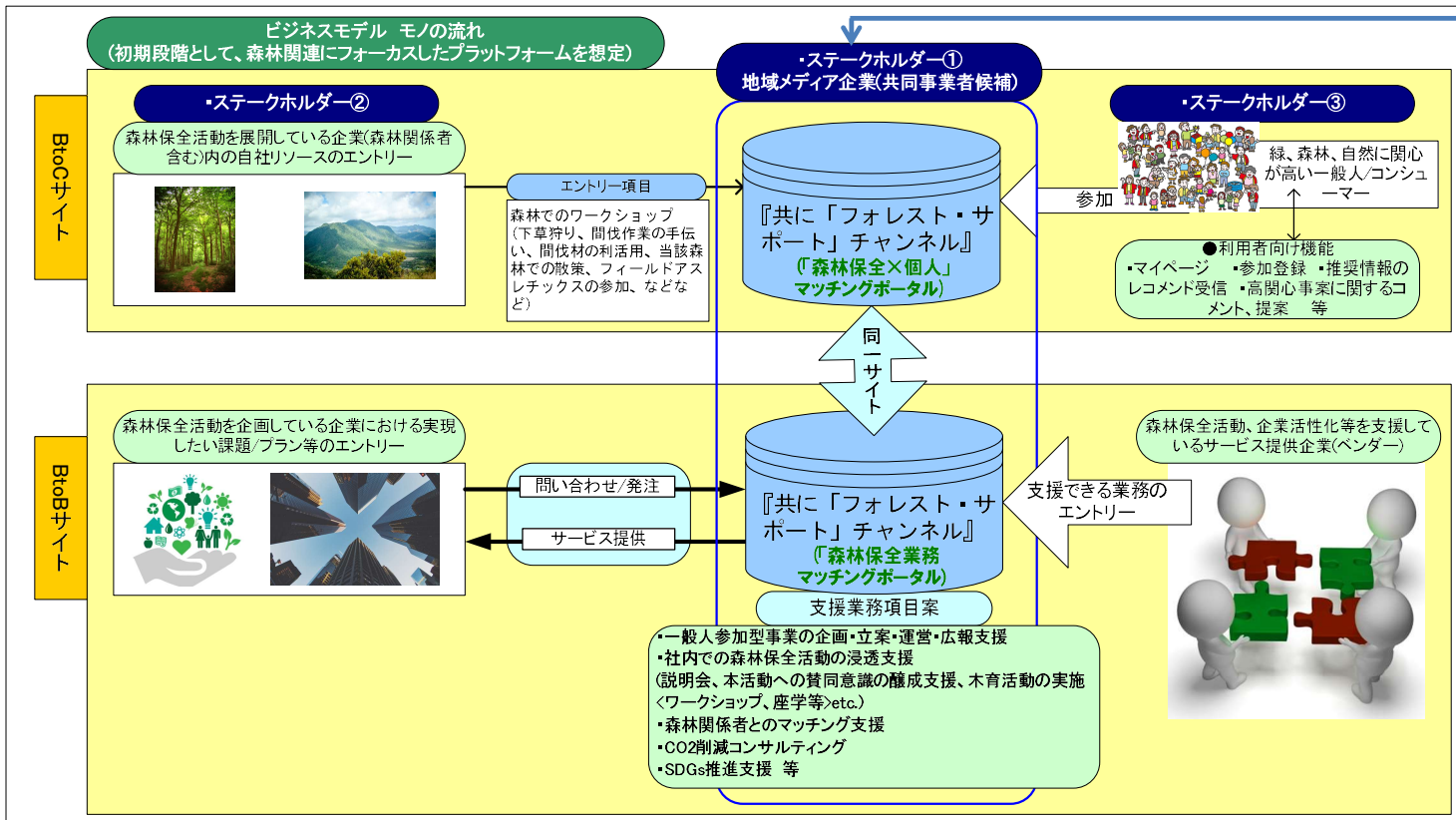
提供/共同事業化



●我々が提供する新規事業モデル

- ・森林組合や大手一部の企業の「保全活動」に依存するのではなく、「中小企業」でも取り組めるよう、「一般人(共感者)」との「協働活動」を実現・支援するプラットフォーム『共に「SDGs/フォレスト・サポート」チャンネル』システムを、
『情報収集』『情報発信』等の「ハブ」機能を持つ地域メディア企業と事業連携しながら、中小企業、共感者(緑、森林、自然に関心が高い一般人/コンシューマー)に提供することで、森林保全・育成活動の推進を支援していく。
- ・収益構造としては、顧客企業が、当該プラットフォームへの登録を実施しやすいように、一般人を絡めた当該活動の企画から、社内体制の構築、広報、事後報告など、連続性を持った「業務フロー」ごとのサービスを用意しておき、その工程ごとに、事案受託を実現する。

解決策のサービス・製品内容は?



提供するシステム/ノウハウ

- ・連携企業(メディア企業等)に対して、当該プラットフォームシステムを提供する。デザイン・機能等のカスタマイズや、運用サポート等も実施する。
 - ・併せて連携企業に対して、顧客企業開拓、一般人参加者開拓等のノウハウ・運用サポートを実施する。
- 基本システム概略
- ・全体説明ページ ・イベント案内 ・新着情報 ・活動報告 ・課題解決ナビ ・協力団体(課題支援マッチング) ・お問合せ ・掲載記事アーカイブ ・出前授業申込等
- 収益の源泉
- ・「収益構造」としては、顧客企業が、一般人を絡めたSDGs活動の企画から、社内体制の構築、広報、事後報告など、連続性を持った「業務フロー」ごとのサービスを用意しておき、その工程ごとに、事案受託による売上等を想定する。
 - ・一般参加者に向けた広告、情報提供等に関する収益構造も構築する。
 - ・収益に関しては、連携先のメディア企業等との関わり方によって、協議・決定する。

導入事例



●活動報告2(仮説モデルの実現戦略)

・『フォレスト・サポート・フェスティバル』

